科目名	建築設計製図Ⅴ				
科目名(英)	Architectural design drafting Ⅳ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈　道章
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年生				
授業概要	敷地等の条件を与えて、第1課題(幼稚園)、第2課題(図書館)についてコンセプト、基本図の作成等を行う。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○				幼稚園、図書館の設計において重要な事項を説明出来る
	○		○		幼稚園、図書館の設計においてエスキスを進めることが出来る
	○		○		基本図(平面図、断面図、立面図)の作図が出来る

テキスト・教材 参考図書: 新しい建築製図　　学芸出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	第1課題(幼稚園)の課題説明	
2	コンセプトプランニング	建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集
3	エスキス	収集した資料の分析
4	平面図(1)	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
5	平面図(2)	進捗状況を指導教員に報告する
6	断面図	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
7	立面図	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
8	詳細図	進捗状況を指導教員に報告する
9	第2課題(図書館)の課題説明	
10	コンセプトプランニング	建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集
11	エスキス	収集した資料の分析
12	平面図(1)	進捗状況を指導教員に報告する
13	平面図(2)	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
14	断面図	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
15	立面図	進捗状況を指導教員に報告する

評価方法

(1)提出課題の完成度　(2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません)　(3)出席率
※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題作品の提出枚数		○		○		70%
作品の完成度		○		○		20%
出席率				○		10%

①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合　②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合
①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない
※参考(提出枚数について)　S評価　すべての課題を提出　　A評価　提出枚数が全体の8割以上

科目名	建築設計製図Ⅵ				
科目名(英)	Architectural design drafting Ⅵ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈　道章
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年生				
授業概要	各自がテーマを決めて、既に修得した知識を基に自由設計を行う				
授業形式	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○		○		設計に必要な資料を収集できる
	○		○		コンセプトに基づきプランニングすることが出来る
	○		○		計画したプランを図面化することが出来る
	○		○		作品を分かりやすくプレゼンすることが出来る

テキスト・教材 参考図書

新しい建築製図　　学芸出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	課題の内容説明/主用途の設定	
2	実例研究　(幼稚園)	建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集
3	敷地設定/現地調査	収集した資料の分析
4	計画コンセプトの検討とチェック	収集した資料の分析
5	基本設計(1)　平面、立面、断面のエスキス検討	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
6	基本設計(2)　平面、立面、断面のエスキス検討とチェック	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
7	配置図の作図	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
8	各階平面図の作図(1)	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
9	各階平面図の作図(2)	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
10	各階平面図の作図(3)　チェック	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
11	断面図の作図(1)	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
12	断面図の作図(2)　チェック	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
13	立面図の作図、チェック	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
14	外観パースの作成、チェック	課題の進捗状況に応じて、課題を進める
15	プレゼンテーション、講評	課題の進捗状況に応じて、課題を進める

評価方法

(1)課題の提出内容　(2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません)　(3)出席率
※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題の提出枚数		○		○		70%
作品の完成度		○	○			20%
出席率				○		10%

①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合　②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合
①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない
※参考(提出枚数について)　S評価　すべての課題を提出　　A評価　提出枚数が全体の8割以上

科目名	建築計画Ⅲ				
科目名(英)	Architectural Planning Ⅲ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	深野木　隆
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	・劇場、集会施設、老人ホーム、体育館等を計画する上での考慮すべき事項を学ぶ。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				事務所ビルを計画する上での構成・要件・形式の説明が出来る
○	○				劇場を計画する上で基本的事項(客席・舞台の形式・構成要素・配置計画)の説明が出来る
○	○				百貨店・スーパーマーケットの基本的事項(種類・配置計画・店舗の構成)について説明出来る
○	○				宿泊施設を計画する上での基本的事項(部門・構成要素・動線計画)が説明出来る

テキスト・教材 参考図書

建築計画　　実教出版
オリジナルプリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率	予習・復習することを心がける。
2	6-2事務所ビル　事務所ビルの変遷	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
3	6-2事務所ビル　事務所ビルの計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
4	6-2事務所ビル　各室計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
5	6-3劇場・音楽ホールの変遷	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
6	6-3劇場・音楽ホールの計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
7	6-3劇場・音楽ホール　客席・舞台の計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
9	6-4百貨店・スーパーマーケット　大規模小売店舗の計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
10	6-4百貨店・スーパーマーケット　売り場の計画・駐車場	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
11	6-5　宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
12	6-5　宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
13	6-5　宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
14	6-5　宿泊施設 6-6　駐車場	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
15	総括Ⅰ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)授業の中で小テストを5回実施する。 (2)レポートを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				60%
小テスト	○	○				20%
宿題・レポート	○	○		○		20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築設備　Ⅱ				
科目名(英)	Building Facilities Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山崎　洋一
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築学科(夜間)2年				
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として 必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				給排水衛生設備・電気設備の役割を説明できる
○	○				給排水衛生設備・電気設備の機器構成を列挙することができる
○	○				給排水衛生設備の給水・排水方式について用途の違いを説明できる
○	○				電気設備の相互関連性(受変電幹線設備と動力設備、自家発電と蓄電池)について説明できる
○	○				給排水、電気(照明)設備に関連する数値を計算式により導き出せる(水量、照度等)

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座「建築設備」市谷出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	給水衛生設備とは 給水設備(水道施設、水道水水質)	授業内容の復習
2	給水設備(給水方式)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
3	給水設備(使用水量と給水圧力)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
4	給水設備(上水の汚染と防止・揚水ポンプ能力・管径・管材)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
5	給水設備、ガス設備	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
6	排水通気設備 (排水通気設備の目的・排水の種類と方式・トラップ・配管・排水槽)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
7	排水通気設備 (通気方式・間接排水・雨水排水・配管材料・口径計算)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
8	排水処理設備(目的・評価手法・種類と特徴・再利用施設)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
9	衛生器具設備(概要・種類・設置計画・ユニット)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
10	消火設備(消火の基本・消火設備の種類・作動の仕組み)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
11	電気設備とは(役割と構成) 受変電幹線設備(受電設備)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
12	受変電幹線設備(幹線設備) 動力設備(概要)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
13	自家発電・蓄電池(種類と概要・無停電電源装置)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
14	照明コンセント設備(照明器具・コンセント)	授業内容の復習
15	まとめ	授業内容の復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				50%
小テスト	○	○				20%
宿題・レポート	○	○				20%
出席率				○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	構造力学Ⅲ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木　文雄
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	・断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径)について学ぶ。 ・応力度について学ぶ。 ・部材の変形(梁のたわみ、柱の座屈)について学ぶ。 ・不静定構造について学ぶ。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数)が計算できる。
○	○				各応力度が計算できる。
○	○				梁のたわみ、柱の座屈が計算できる。
○	○				不静定構造物が計算できる。

テキスト・教材 参考図書　建築構造設計　　実教出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	断面の性質について、断面一次モーメントと図心	授業内容の復習
2	断面二次モーメント	授業内容の復習と次回授業内容の予習
3	断面係数、断面二次半径	授業内容の復習と次回授業内容の予習
4	応力度について、垂直応力度の算定	授業内容の復習と次回授業内容の予習
5	曲げ応力度とせん断応力度	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
6	応力度練習問題	授業内容の復習と次回授業内容の予習
7	梁のたわみ	授業内容の復習と次回授業内容の予習
8	座屈	授業内容の復習と次回授業内容の予習
9	不静定構造について	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
10	剛度、剛比について	授業内容の復習と次回授業内容の予習
11	固定モーメント法(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
12	固定モーメント法(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
13	固定モーメント法(3)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
14	多層ラーメンの応力	授業内容の復習
15	まとめ	授業内容の復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)出席率　以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				50%
小テスト	○	○		○		20%
宿題・レポート	○	○		○		20%
出席率				○		10%

履修上の注意　出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築構造Ⅲ				
科目名(英)	Architectural structure Ⅲ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山　文彦
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	鋼構造の成り立ちと構造的特性、基礎の種類と基礎構造の特性について学ぶ				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○		○		鋼材の機械的性質について説明できる
	○		○		鋼構造の特徴を説明できる
	○		○		直接基礎と杭基礎の違いを説明できる
	○		○		直接基礎と杭基礎の特性について説明できる

テキスト・教材 参考図書

建築構造　　実教出版
オリジナルプリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	構造の特徴と構造形式	授業内容の復習
2	鋼と鋼材	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
3	鋼材の接合(1)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
4	鋼材の接合(2)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
5	基礎	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
6	骨組(1)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
7	骨組(2)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
8	仕上げ(1)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
9	仕上げ(2)	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
10	軽量鉄骨構造と鋼管構造	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
11	鉄骨鉄筋コンクリート構造	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
12	基礎と地盤	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
13	直接基礎	授業内容の復習と次回授業範囲の予習
14	杭基礎	授業内容の復習
15	まとめ	授業内容の復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○				50%
小テスト		○				20%
宿題・レポート		○		○		20%
出席率				○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築施工Ⅱ				
科目名(英)	Building Construction Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高野　繁
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	建築工事標準仕様書に基づき、仕上げ工事の設計・工事の実施例を参考に講義を進める				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる
○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る
○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)

テキスト・教材 参考図書　建築構造　　実教出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	防水工事(アスファルト防水・塗膜防水)	授業内容の復習
2	防水工事(シート防水等)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
3	石工事(石全般)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
4	タイル工事(タイル全般)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
5	木工事(木材・合板・集成材)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
6	木工事(床組・天井)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
7	屋根・とい工事(屋根・とい全般)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
8	金属工事(軽量鉄骨天井下地・軽量鉄骨壁下地)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
9	金属工事(金属成形板張り・金属製品)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
10	左官工事(モルタル塗り)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
11	左官工事(床コンクリートこて仕上げ)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
12	建具工事(アルミニウム製建具・鋼製建具・ステンレス製建具)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
13	建具工事(木製建具・建具金物)	履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問
14	建具工事(シャッター・扉の形式・建具枠組)	授業内容の復習
15	まとめ	授業内容の復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。
(2)出席率

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○		○		90%
出席率				○		10%

履修上の注意　出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築法規　Ⅱ				
科目名(英)	Building regulations Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹下　幸栄
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	2級建築士学科試験合格レベルの建築法規に関する知識を修得し、より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。
	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。
	○				建築法規に規定する事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。
	○		○		実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。

テキスト・教材 参考図書

・総合資格学院編　建築関係法令集　法令編
・総合資格学院発行　平成31年度版　2級建築士試験　学科　厳選問題集

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	内装制限Ⅰ(①内装制限を受ける建築物、②内装制限を受ける建築物の内装)	事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。
2	内装制限Ⅱ(①内装制限を受ける建築物の内装、②内装制限を受けるその他の部分)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
3	構造計算・構造強度Ⅰ(①構造計算による安全性の確認を擁するもの、②荷重および外力、③構造部材等)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
4	構造計算・構造強度Ⅱ(①木造軸組みの算定)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
5	構造計算・構造強度Ⅲ(①木造、補強コンクリートブロック造、②鉄骨造、③鉄筋コンクリート造)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
6	敷地等と道路(①道路の定義、法第42条第2項道路、②位置指定道路の基準、③接道条件)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
7	用途地域(①用途地域の種類(法第48条、法別表第2)、②用途地域の建築制限)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
8	建ぺい率(①建ぺい率、②2以上の地域に属する場合の建ぺい率、③建ぺい率の限度が緩和される場合)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
9	容積率Ⅰ(①容積率、②容積率の限度、③敷地が制限の異なる地域にわたる場合)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
10	容積率Ⅱ(①特定道路による幅員の緩和、②容積率対象外の床面積)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
11	高さ制限Ⅰ(①低層住居専用地域における建築物の高さの限度、②道路高さ制限)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
12	高さ制限Ⅱ(①北側高さ制限、②隣地高さ制限)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
13	日影規制(①日影による高さの制限、②日影による中高層の建築物の高さの制限)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
14	建築士法(①建築士法総則・免許等、建築士の業務、②設計受託契約等、③建築士事務所)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
15	その他関係法令(①高齢者、障害者等移動等円滑化の促進に関する法律、②住宅の品質確保の促進に関する法律)	定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				50%
小テスト	◎	◎				20%

	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席数				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

→ 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。

→ 任意で記入してください。

→ 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。

→ 実施される年度、時期（前期・後期・通年）を記入してください。実務家教員の担当科目には「〇」を記入してください。

→ 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。

→ 授業科目の概要を記入してください。（カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など）

→ 該当する授業形式に〇を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に〇、その他に△を記入してください。（職業実践専門課程の

→ 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、〇を記入してください。

→ 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし

→ 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
同様のテーマを複数にわたり扱う場合は、「〇〇〇〇①」「〇〇〇〇②」のように記載するのではなく、
例えば、「〇〇〇〇①　△△△、×××」「〇〇〇〇②　□□□、◇◇◇」のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記入してください。
授業の性格上、回ごとに分けることが困難な場合でも、授業内容の大まかな順序が分かるよう、可能な範囲で具体的に記入してください。
複数教員で分担して担当する場合は、該当回の担当教員名を括弧書きで記入してください。

→ 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標（到達目標）で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または〇を記入してください。

→ 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。

※式4（3）と一致させる）

」と記入してください。

科目名	建築CAD設計演習Ⅳ				
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design Ⅳ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	小嶺　洋介
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科(夜間)　2年				
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようにする方法とコマンドの使い方を学びます。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○			Archi　CADの初期設定・環境設定を行える
	○	○			Archi　CADの基本操作(レイヤ、クラス設定)ができる
	○	○			Archi　CADの基本操作を活用し、簡単な平面図(1F平面図)を作成できる
	○	○			Archi　CADの基本操作を応用し、立面図を作成できる

テキスト・教材 参考図書: オリジナルプリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	概要説明　Archi　CADとは？	
2	Archi　CAD初期設定と環境設定　／レイヤ・クラス設定	作図コマンドの習得
3	基本操作　基本ツールの説明、作図方法の説明	作図コマンドの習得
4 5	課題「平面図の作図①」 作図のための1/100用紙設定	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
6 _	課題「平面図の作図①」 1F平面図	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
13 _ 16	課題「平面図の作図②」 1F 平面図を利用した作図方法	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
17 _	課題「平面図の作図②」 2F平面図	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
21 _	課題「立面図の作図①」 平面図を利用した作図方法	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
24 25	課題「立面図の作図②」 東南立面図の作図	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
26	各自プランニング作図①　2人1組にてヒアリング、プランニング	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
27	各自プランニング作図①　Vector　Worksの操作の復習・質問	各課題の進捗状況に応じて課題を進めること
28	各自プランニング作図①　Vector　Worksで図面化(平面図)	プレゼンテーションの準備
29	各自作品のプレゼン	プレゼンテーションの準備
30	プレゼンについての講評、ディスカッション	

評価方法

提出課題の完成度・提出状況、プレゼンテーションの完成度、出席率により総合的に判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
提出課題(完成度、提出状況)		○	○			50%
プレゼンテーション		○	○			40%
出席率				○		10%

履修上の注意: 出席が20回に満たない場合は、課題の提出が出来ない。